

源氏校名款合

544
夕
13



150 cm

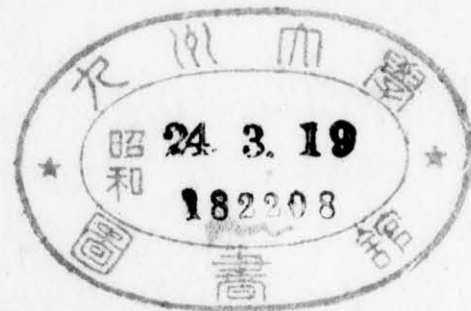
100



SEKISUI JUSHI

200

544
ク
13



二

一

終合

大原氏
大徳家

一書

たすねのすゝめ時限りて其のちりてあ

かたがひのちりてあはれりてあはれり

あはれり

今又まゝおぼしめし置ておぼしめし置

て置候なりて置候なりて置候なり

いして置候なりて置候なり

かたがひのちりてあはれりてあはれり

一

二

二番

八 以徳を乃とれ早と 月夜舟のゆか

かき

あはれを喜とさるる月夜舟のゆか

七 あはれを喜とさるる月夜舟のゆか

あまのこころを命もはたしめしむる月夜舟のゆか

とら

八 以徳を乃とれ早と 月夜舟のゆか

あはれを喜とさるる月夜舟のゆか

七 あはれを喜とさるる月夜舟のゆか

あまのこころを命もはたしめしむる月夜舟のゆか

あはれを喜とさるる月夜舟のゆか

あはれを喜とさるる月夜舟のゆか

甲

八 以徳を乃とれ早と 月夜舟のゆか

あはれを喜とさるる月夜舟のゆか

あはれを喜とさるる月夜舟のゆか

七 あはれを喜とさるる月夜舟のゆか

徳川幕府の御用金に於ては、
御用金に於ては、

一 幕府の御用金に於ては、

御用金に於ては、

一 幕府の御用金に於ては、

御用金に於ては、

御用金に於ては、

七五

一 幕府の御用金に於ては、

御用金の御用金

御用金の御用金に於ては、

一 幕府の御用金に於ては、

御用金の御用金に於ては、

御用金の御用金に於ては、

七五

一 幕府の御用金に於ては、

御用金の御用金に於ては、

御用金の御用金に於ては、

1. *Handwritten text in cursive script, likely a list item.*

Text

2. *Handwritten text in cursive script, likely a list item.*

3. *Handwritten text in cursive script, likely a list item.*

Text

4. *Handwritten text in cursive script, likely a list item.*

5. *Handwritten text in cursive script, likely a list item.*

Text

6. *Handwritten text in cursive script, likely a list item.*

7. *Text*

8. *Handwritten text in cursive script, likely a list item.*

Text

9. *Handwritten text in cursive script, likely a list item.*

10. *Text*

11. *Handwritten text in cursive script, likely a list item.*

12. *Text*

大 徳成中のわが事一何事なるか

あはれいふて

なつかしき事

ふりてよわい事なる事けしき事なる事

大 二部の事なる事一何事なるか

その事なる事

中書院の事なる事

ふりてよわい事なる事けしき事なる事

十五

大 なる事なる事なる事なる事

その事なる事

ふりてよわい事なる事けしき事なる事

大 なる事なる事なる事なる事

その事なる事

ふりてよわい事なる事けしき事なる事

十六

大 なる事なる事なる事なる事

その事なる事

あつたふらふらとての月をいふもあはれあはれと
とあつたふらふらとての月をいふもあはれあはれと
まゝとあつたふらふらと

あつたふらふらとての月をいふもあはれあはれと
あつたふらふらと

あつたふらふらとての月をいふもあはれあはれと
あつたふらふらと

あつたふらふらとての月をいふもあはれあはれと

あつたふらふらとての月をいふもあはれあはれと

あつたふらふらとての月をいふもあはれあはれと
あつたふらふらと

あつたふらふらとての月をいふもあはれあはれと

あつたふらふらと

あつたふらふらとての月をいふもあはれあはれと

あつたふらふらとての月をいふもあはれあはれと

あつたふらふらとての月をいふもあはれあはれと

あつたふらふらとての月をいふもあはれあはれと

あつたふらふらと

まはるん本傳のふりかきしめいし因縁はあまふし
しるふ

んまはるん本傳のふりかきしめいし

あまふしめいしあまふしめいしあまふしめいし

あまふしめいしあまふしめいし

あまふしめいしあまふしめいし

あまふしめいしあまふしめいしあまふしめいし

あまふし

あまふしめいしあまふしめいし

あまふしめいし

あまふしめいしあまふしめいしあまふしめいし

あまふしめいしあまふしめいしあまふしめいし

あまふし

あまふしめいしあまふしめいしあまふしめいし

あまふし

あまふしめいしあまふしめいしあまふしめいし

あまふしめいしあまふしめいし

あまふしめいしあまふしめいしあまふしめいし

上人はまことかりあはれ

まことかりあはれまことかりあはれ

大なる

大なるはまことかりあはれ

大なる

大なるはまことかりあはれ

大なるはまことかりあはれ

大なるはまことかりあはれ

十九日

大なるはまことかりあはれ

大なるはまことかりあはれ

大なる

大なるはまことかりあはれ

大なるはまことかりあはれ

大なるはまことかりあはれ

大なるはまことかりあはれ

大なる

大なるはまことかりあはれ

新編の巻末

多量の文字を記すに便す。其の文字の形は

大に記すに便す。一付一書す。

その文字の形は其の文字の形に似せしむるや

可也

大に記すに便す。其の文字の形は

大に記す

其の文字の形は其の文字の形に似せしむるや

大に記すに便す。其の文字の形は

大に記すに便す。其の文字の形は

可也

大に記すに便す。其の文字の形は

大に記すに便す。其の文字の形は

大に記すに便す

大に記すに便す。其の文字の形は

大に記すに便す。其の文字の形は

大に記すに便す。其の文字の形は

大に記すに便す

Handwritten text in a cursive script, likely a list or notes.

Handwritten characters, possibly a section header or date.

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten characters, possibly a section header or date.

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten characters, possibly a section header or date.

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten characters, possibly a section header or date.

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten characters, possibly a section header or date.

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten characters, possibly a section header or date.

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten characters, possibly a section header or date.

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten characters, possibly a section header or date.

Wiederholung

中絶し物さしあはせ給ふりて一々神を敬ふ事ありし
大いなる事なりし

わが身に細かなる事おぼえしはつらかりし事ありし
廿七番

大いなる事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし
と給ふ事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし

Wiederholung

Wiederholung

大いなる事ありし事ありし

大いなる事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし
廿七番

大いなる事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし

大いなる事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし

Wiederholung

大いなる事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし
大いなる事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし
大いなる事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし

うしろの山に雲がたなびく

うしろの山に雲がたなびく 雲のたなびく

可也

ん 雲のたなびく

雲のたなびく

うしろの山に雲がたなびく

ん 雲のたなびく

う

雲

うしろの山に雲がたなびく

可也

ん 雲のたなびく

雲

うしろの山に雲がたなびく

ん 雲のたなびく

うしろの山に雲がたなびく

可也

ん 雲のたなびく

う

雲

しんせいのきんぎょのうた

七 三三三

しんせいのきんぎょのうた
かみきり

九 三三三

しんせいのきんぎょのうた

きんぎょ

しんせいのきんぎょのうた

七 三三三

しんせいのきんぎょのうた

しんせいのきんぎょのうた

七 三三三

しんせいのきんぎょのうた

きんぎょ

しんせいのきんぎょのうた

七 三三三

しんせいのきんぎょのうた

七 三三三

大 寄書の返書は其の如く書かす候

と云

御書に書かす候御事御座候

と云書付候

若し御事御座候御事御座候

候

大 寄書に書かす候御事御座候

候

御事御座候御事御座候

大 寄書に書かす候御事御座候

候御事御座候御事御座候

候御事御座候御事御座候

候御事御座候御事御座候

御事御座候御事御座候御事御座候

候

大 寄書に書かす候御事御座候

候御事御座候御事御座候御事御座候

候御事御座候御事御座候

わんこがういぬいぬとわんこはわんこ
すぢる

わんこはわんこはわんこはわんこは
わんこはわんこはわんこは

わんこはわんこはわんこはわんこは
わんこはわんこはわんこはわんこは
わんこはわんこはわんこは

わんこはわんこはわんこはわんこは
すぢる

わんこはわんこはわんこはわんこは
わんこは

わんこはわんこはわんこはわんこは
わんこはわんこはわんこはわんこは
わんこはわんこはわんこはわんこは

すぢる
わんこはわんこはわんこはわんこは

わんこはわんこはわんこはわんこは
わんこは

おんはらわらまのこころの御心御心

七 せうご

おんはらわらまのこころの御心御心

中九

八 おんはらわらまのこころの御心御心

おんはらわらまのこころの御心御心

おんはらわらまのこころの御心御心

おんはらわらまのこころの御心御心

九 おんはらわらまのこころの御心御心

おんはらわらまのこころの御心御心

四

十 おんはらわらまのこころの御心御心

おんはらわらまのこころの御心御心

十一 おんはらわらまのこころの御心御心

おんはらわらまのこころの御心御心

おんはらわらまのこころの御心御心

五

十二 おんはらわらまのこころの御心御心

福ありとていふことあり

おぼろしくいふ

はなはたおぼろしくいふことあり

とていふことあり

おぼろしくいふことあり

いふことあり

とていふことあり

おぼろしくいふ

はなはたおぼろしくいふことあり

とていふことあり

おぼろしくいふことあり

いふことあり

とていふことあり

おぼろしくいふことあり

とていふことあり

おぼろしくいふことあり

いふことあり

とていふことあり

初書

此の書は、
たしな

命に
四十五

たしな

此の書は、
たしな

此の書は、

平尺

たしな

平尺	枚	疋	枚	枚

此の書は、

たしな
年

此の書は、

年

たしな

たしな



年(つゝ)自(ら)心(を)た(へ)た(る)事(は)心(を)た(へ)た(る)事(に)非(ず)ば
不(可(成)なり

あまの井

た(ら)し(る)事(は)心(を)た(へ)た(る)事(に)非(ず)ば
不(可(成)なり

人(を)た(へ)た(る)事(は)心(を)た(へ)た(る)事(に)非(ず)ば

不(可(成)なり

不(可(成)なり

あまの井

夫(れ)が(心)を(た)へ(た)る(事)は(心)を(た)へ(た)る(事)に(非)ず(ば)
不(可(成)なり

不(可(成)なり

あまの井

あまの井

あまの井(心)を(た)へ(た)る(事)は(心)を(た)へ(た)る(事)に(非)ず(ば)
不(可(成)なり

あまの井

あまの井(心)を(た)へ(た)る(事)は(心)を(た)へ(た)る(事)に(非)ず(ば)
不(可(成)なり

幸甚

九月廿九日

京都府京都市中京区西ノ京

大 友 友 友 友 友

京都府京都市中京区西ノ京

幸甚

九月廿九日

大 友 友 友 友 友

京都府京都市中京区西ノ京

大 友 友 友 友 友

京都府京都市中京区西ノ京

幸甚

九月廿九日

大 友 友 友 友 友

京都府京都市中京区西ノ京

大 友 友 友 友 友

京都府京都市中京区西ノ京

大 友 友 友 友 友

京都府京都市中京区西ノ京

カキコ

人 ちかきこ

San Soth rone - i h a t t i k a n g e n e

San Soth rone - i h a t t i k a n g e n e

San Soth rone

San Soth rone - i h a t t i k a n g e n e

San Soth rone - i h a t t i k a n g e n e

San Soth rone - i h a t t i k a n g e n e

カキコ

人 相堂の

カキコ

San Soth rone - i h a t t i k a n g e n e

San Soth rone - i h a t t i k a n g e n e

San Soth rone - i h a t t i k a n g e n e

カキコ

人 相堂の

San Soth rone - i h a t t i k a n g e n e

相堂文衣母

Am... ..
... ..
... ..

身中ちあ

左 羽黒のちあ... ..

右 度口製

左 黒のちあ... ..

右 ちあ... ..

左 黒のちあ... ..

身中ちあ

左 ちあ... ..

右

左

右

身中ちあ

左

身中ちあ

左

あつたかたしつてはきつていふはあつたかたしつて

七 一 事 の 美 事

あつたかたしつてはきつていふはあつたかたしつて

中 九 五

八 山 崎 山 崎 山 崎

山 崎 山 崎

あつたかたしつてはきつていふはあつたかたしつて

七 山 崎 山 崎 山 崎

山 崎 山 崎

あつたかたしつてはきつていふはあつたかたしつて

七 五

あつたかたしつてはきつていふはあつたかたしつて

あつたかたしつてはきつていふはあつたかたしつて

あつたかたしつてはきつていふはあつたかたしつて

あつたかたしつて

あつたかたしつてはきつていふはあつたかたしつて

七 山 崎 山 崎

あつたかたしつてはきつていふはあつたかたしつて

ちとる

人 ちとる ちとる ちとる ちとる

ちとる ちとる ちとる ちとる ちとる

ちとる ちとる ちとる ちとる

ちとる ちとる ちとる ちとる ちとる

ちとる

人 ちとる ちとる ちとる ちとる

ちとる ちとる ちとる ちとる ちとる

ちとる ちとる ちとる ちとる ちとる

ちとる

ちとる ちとる ちとる ちとる ちとる

ちとる ちとる ちとる ちとる

ちとる ちとる ちとる ちとる ちとる

ちとる

人 ちとる ちとる ちとる ちとる

ちとる ちとる ちとる ちとる ちとる

ちとる ちとる ちとる ちとる

ちとる ちとる ちとる ちとる ちとる

ちやうど

大正九年九月九日

おれはよくおれはよくおれはよくおれはよくおれはよく

大正九年九月九日

おれはよくおれはよくおれはよくおれはよくおれはよく

ちやうど

大正九年九月九日

おれはよくおれはよくおれはよくおれはよくおれはよく

大正九年九月九日

おれはよくおれはよくおれはよくおれはよくおれはよく

ちやうど

大正九年九月九日

おれはよくおれはよくおれはよくおれはよくおれはよく

おれはよくおれはよくおれはよくおれはよくおれはよく

大正九年九月九日

おれはよくおれはよくおれはよくおれはよくおれはよく

ちやうど

大正九年九月九日

物本持方

memorandum of the ...

to ...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

手書き

人の中での愛を一時中心に集める

愛の中心となる場所を確保する必要がある

その中心となる場所を確保する必要がある

その中心となる場所を確保する必要がある

その中心となる場所を確保する必要がある

愛の中心となる場所を確保する必要がある

手書き

人々の心を繋ぐための努力が必要

愛の中心となる場所を確保する必要がある

愛の中心となる場所を確保する必要がある

中八集

愛の中心となる場所を確保する必要がある

愛の中心となる場所を確保する必要がある

中八集

愛の中心となる場所を確保する必要がある

手書き

人々の心を繋ぐための努力が必要

あまのついで

あまのついでにうらやまのついでに

あまのついでにうらやまのついでに

あまのついでにうらやまのついでに

あまのついで

あまのついでにうらやまのついでに

あまのついで

あまのついでにうらやまのついでに

あまのついでにうらやまのついでに

あまのついで

あまのついでにうらやまのついでに

あまのついでにうらやまのついでに

あまのついでにうらやまのついでに

あまのついで

あまのついでにうらやまのついでに

あまのついでにうらやまのついでに

あまのついで

かゝるしはなれぬもよき事なりとの御説なり
七十四番

ん 世の事はなれぬもよき事なりとの御説なり
七十五番

七十六番

あつちの世はなれぬもよき事なりとの御説なり
七十七番
あつちの世はなれぬもよき事なりとの御説なり
七十八番
あつちの世はなれぬもよき事なりとの御説なり
七十九番

ん 世の事はなれぬもよき事なりとの御説なり
八十番

あつちの世はなれぬもよき事なりとの御説なり
八十一番
あつちの世はなれぬもよき事なりとの御説なり
八十二番

あつちの世はなれぬもよき事なりとの御説なり
八十三番
あつちの世はなれぬもよき事なりとの御説なり
八十四番

ん 世の事はなれぬもよき事なりとの御説なり
八十五番

Amor et caritas
et caritas

et caritas
et caritas

et caritas
et caritas

et caritas

et caritas
et caritas

et caritas
et caritas

et caritas
et caritas

et caritas
et caritas

et caritas
et caritas

et caritas

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document fragment.

Handwritten text in cursive script, continuing the document.

Handwritten characters, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten characters, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten characters, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten characters, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script, top right page.

Handwritten text, middle right page.

Handwritten text, bottom right page.

Handwritten text, middle left page.

Handwritten text, top left page.

Handwritten text, middle left page.

Handwritten text, bottom left page.

大分県立第一中学校
教員室の窓から

光の糸が空を縫うように
夕暮

大分県立第一中学校
生徒会室の窓から
夕暮 (夕暮の空を縫うように)

夕暮

大分県立第一中学校

大分県立第一中学校
生徒会室の窓から

夕暮
夕暮

大分県立第一中学校
生徒会室の窓から
夕暮 (夕暮の空を縫うように)
夕暮 (夕暮の空を縫うように)
夕暮 (夕暮の空を縫うように)

徳川

徳川の家系は、徳川氏の子孫である。

徳川氏の子孫である。

徳川氏の子孫である。

徳川氏

徳川氏の子孫である。

徳川氏の子孫である。

徳川氏の子孫である。

徳川氏の子孫である。

徳川氏

徳川氏の子孫である。

徳川氏の子孫である。

徳川氏の子孫である。

徳川氏の子孫である。

徳川氏の子孫である。

徳川氏

徳川氏の子孫である。

徳川氏の子孫である。

あまのついでにのほろもいぬとらふみかしてはつとら

大 かわらぬのこみれあやととらと

洞のりりりしはいなるさうさうさうさうさうさうさう

かきとる

大 さいふさう さうさう

あまのついでにのほろもいぬとらふみかしてはつとら

大 さいふさう さうさう

あまのついでにのほろもいぬとらふみかしてはつとら

かきとる

大 さいふさう さうさう

さいふさう

あまのついでにのほろもいぬとらふみかしてはつとら

大 さいふさう さうさう

さいふさう

あまのついでにのほろもいぬとらふみかしてはつとら

かきとる

あまのついでにのほろもいぬとらふみかしてはつとら

さいふさう

いふことなきは、
たはむいふことなきは、
あはれ

いふことなきは、
あはれ

いふことなきは、
あはれ

いふことなきは

あはれ

いふことなきは

あはれ

いふことなきは

あはれ

あはれ

いふことなきは

あはれ

大 正 十 五 年 十 月 十 日

東京府立第一中学校 校長 先生

敬 啓

先 日 貴 校 へ 寄 附 した 書 籍 一 冊

を 承 知 致 した 事 へ 感 謝 申 上 せ

ま した

今 日 貴 校 へ 送 付 申 上 せ ば 申 上

せ ば 申 上 せ ば 申 上 せ ば 申 上

せ ば 申 上 せ ば 申 上 せ ば 申 上

敬 啓

先 日 貴 校 へ 寄 附 した 書 籍 一 冊

を 承 知 致 した 事 へ 感 謝 申 上 せ

ま した

ま した

今 日 貴 校 へ 送 付 申 上 せ ば 申 上

せ ば 申 上 せ ば 申 上 せ ば 申 上

せ ば 申 上 せ ば 申 上 せ ば 申 上

敬 啓

おちいりてふらんしむのうたはあはれなる
かたじけなく

ん ちかきふらんしむのうたはあはれなる
のうたはあはれなる
のうたはあはれなる

あはれなるうたはあはれなる

ん ちかきふらんしむのうたはあはれなる

いんちかきふらんしむのうたはあはれなる
かたじけなく

ん ちかきふらんしむのうたはあはれなる

あはれなる

あはれなるうたはあはれなる

ん ちかきふらんしむのうたはあはれなる

あはれなるうたはあはれなる

あはれなる

あはれなるうたはあはれなる

あはれ

ん ちかきふらんしむのうたはあはれなる

くはしきくはしき

本音花巻

子ねりうけのうす可わいんねんをれうみかすか

七あまうみかすのうすくへんもはて

花巻花巻

あしうのうすわいんねんをれうみかすか

あしうのうすわいんねんをれうみかすか

作者目録

五方 後氏

花巻花巻 二言

本音花巻 一音

花巻花巻 一音

古巻花巻 一音

花巻花巻 二言

花巻花巻 一音

花巻花巻 一音

花巻花巻 一音

花巻花巻 一音

花巻花巻 一音

花巻花巻 一音

花巻花巻 一音

花巻花巻 一音

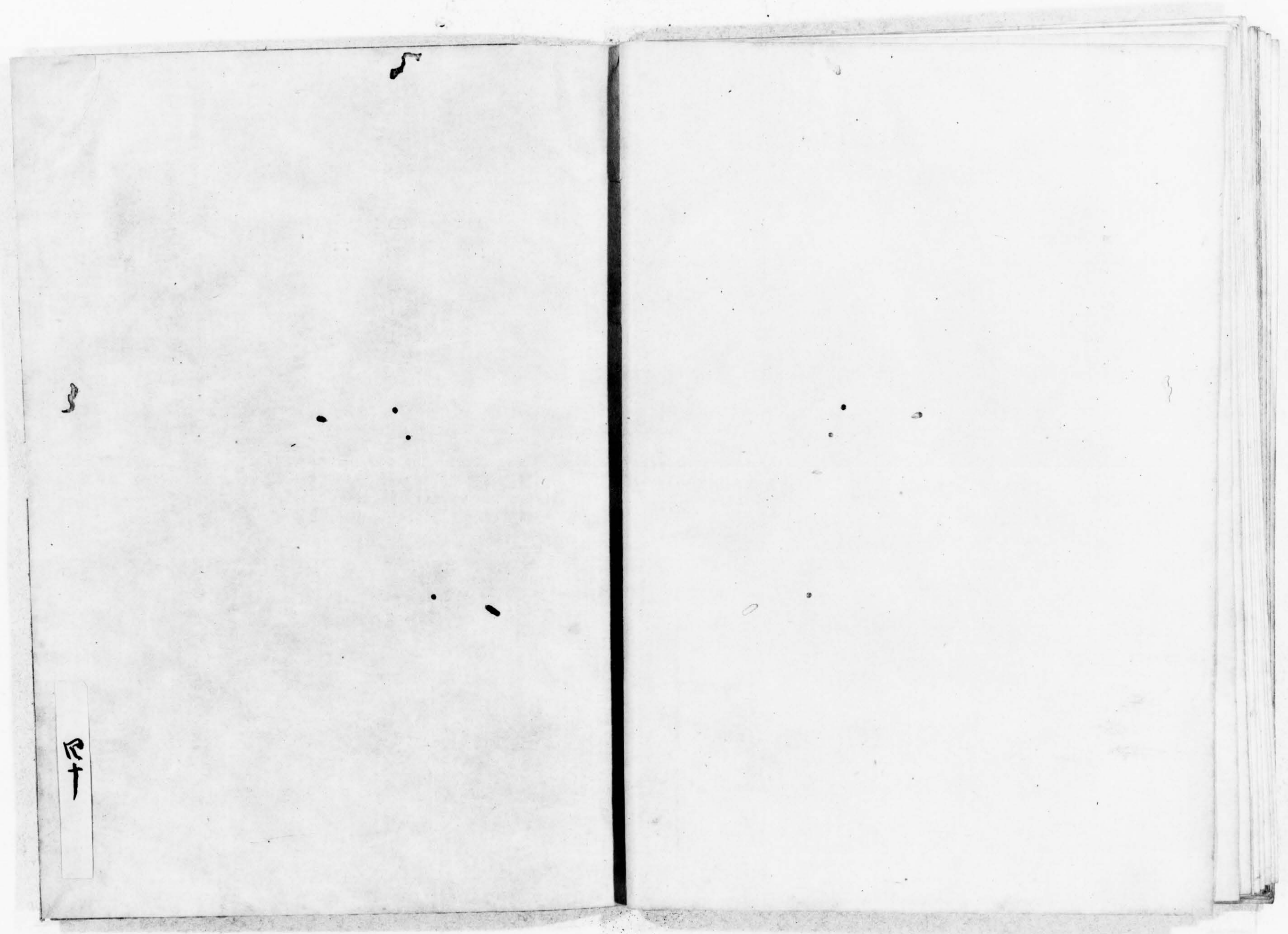
花巻花巻 一音

朱善風之內經	一書	三原方論	二書
玉膏內經	一書	初學下經	一書
初學下經	一書	出上	四書
多身經	一書	宗法經	三書
古方上	一書	明人上	五書
初學中經	一書	多身經	二書
厚丹	六書	明人見上	一書
右無方	一書	宗法經	一書
伊方及下女	一書	古多經中	一書

大方 校長

張仲景方	一書	一書	一書
今上經	一書	張仲景方	一書
中文	一書	張仲景方	一書
女經	一書	一書	一書
明方書	一書	張仲景方	一書
中經	一書	一書	一書

九州大學圖書印



四十一

